

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第28回『新たな風 ～「メデイカルヴィレッジ」～』

オンラインでの『第3回 日本メデイカルヴィレッジ学会』（みどりの杜病院：完全独立型ホスピス緩和ケア病院、福岡県八女市に於いて）に赴いた。筆者は、講演『病気であっても病人ではない』の機会が与えられた（第3回 日本メデイカルヴィレッジ学会 in 八女- YouTube）【プログラム】（画像）。早速「昨日の学会は ユーチューブ上で 現在 582 回の視聴があります。盛会です。ありがとうございました。本日のご講演と座談会も参加者にとって有意義な時間になりました。」との連絡を頂いた。大会長の原口勝 先生（みどりの杜病院 病院長）をはじめスタッフの皆様の熱意と情熱には、ただただ感服した。人類の進むべき「医療の協働体」の日本全国の「メデイカルヴィレッジ」のモデルになる予感がする。

夜は、久留米市のホテルのロビーで『九州国際重粒子線がん治療センター』理事長の中川原章 先生にお逢いした。「久しぶりにお会いでき大変、有意義な、とても楽しいひと時」であった。翌朝 原口勝 先生の運転で『太宰府天満宮』に立ち寄り、「御神牛」を観て、『「福岡ホスピスの会」「がん哲学外来「ぬくみカフェ」 樋野興夫先生を囲んで座談交流会 ～「心の診療室」～』（サンパウロ福岡宣教センター、福岡市中央区）に向かった。北九州、大分県、鹿児島県からも参加され 大いに盛り上がった。『福岡ホスピスの会 がん哲学外来「ぬくみカフェ」』代表：柴田須磨子 氏から、「今日 25 日も 大きな深い思い出の 一ページとなりました。樋野先生が自然体ですので、集う皆さまも、お気持ちがあぐれて 交流会そのものとなった事を とても嬉しく思います。これからも がん哲学 様々な事にチャレンジしながら 新たな風の中を会員一丸となり歩んでゆきたいと存じます。今後も沢山の交わりの中で 九州地区も切磋琢磨しながら 空っぽの器が あちこちに出来ますように。樋野先生に 育てて戴きたく 宜しく願いいたします」との 心温まるメールを頂いた。来年は、九州地区の合同シンポジウムが、企画される予感がする。本当に充実した2日間の『福岡の旅』となった。

プログラム☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

① 13時15分～13時20分 開会あいさつ

高畠 篤代（みどりの杜病院 副院長）

② 13時20分～13時40分 基調講演

「がんになっても心安らかに暮らせる場所とは？」

～切れ目ない緩和ケアと市民の支え合い～

座長：大原 敦子（公立八女総合病院企業団 副企業長）

講師：原口 勝（みどりの杜病院 院長）

③ 13時45分～14時55分 シンポジウム

「治らなくても支え合う市民の力」

座長：丸山 寛（みどりの杜病院 副院長）

【シンポジスト】

- 1) 永松 美穂子（みどりの杜病院 ボランティアコーディネーター）
「ホスピスにおけるボランティアの活動報告」
- 2) 松崎 里恵（八女筑後訪問看護ステーション管理者）
「在宅ケアにおける遺族カフェ（ぬくぬくカフェ）の活動報告」
- 3) 石橋 あかね（柳川市 長田病院 看護部看護科長）
「地域サポーターの取り組み」
- 4) 杉本 眞理（久留米市 がんサロンちっこ 虹の会 会長）
「がんサロンちっこ虹の会の活動報告」

④ 15時00分～15時55分 特別講演

「病気であっても病人ではない」

座長：平城 守（公立八女総合病院企業団 企業長）

講師：樋野 興夫

- 順天堂大学名誉教授
- 順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 客員教授
- 新渡戸稲造記念センター長
- がん哲学外来理事長

⑤ 15時55分～16時00分 閉会あいさつ

岡田 修勢（みどりの杜病院 医療連携科長）